

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会	
施 設 名	札幌市こどもの劇場（やまびこ座）	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	22,407	（千円）
公 演 事 業	18,606	（千円）
人材養成事業	3,066	（千円）
普及啓発事業	735	（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な 出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	やまびこ座野外巨大人形劇「テンペスト」～新しい地域密着型の観客参加方式～	2018年8月4日・5日他	演目：テンペスト 出演：滝沢修、宮川聖子 他 スタッフ：沢則行 他	目標値	1,800名
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	1,987名
2	プロデュース人形劇「北海道の創作人形劇」公演事業	2018年4月28日～ 30日他	演目：モイモイ・オーシャン・ パラダイス 他 出演：狩野智滉、須摩康平 他 スタッフ：黒川絵里奈 他	目標値	2,250名
		札幌市こども人形劇場こ ぐま座 他		実績値	1,547名
3	札幌市こどもの劇場やま びこ座30周年記念札幌 国際人形劇フェスティバ ル	2018年7月25日～ 8月18日他	演目：夏の夜の幻燈会 他 出演：かげえのいしとほし 他 スタッフ：鈴木静悟 他	目標値	4,070名
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座 他		実績値	3,569名
4	札幌市こどもの劇場やま びこ座30周年記念プレ フェスティバル	2018年6月16日他	演目：あそびの劇場「ポンポキ ドン!～ねずみのすもう～」 出演：アフタフ・バーバン 他 スタッフ：西脇秀之 他	目標値	480名
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	409名
5	北海道発・新作人形浄瑠 璃「大黒屋光太夫ロシア 漂流記」制作	2019年1月26日・27日他	演目：大黒屋光太夫ロシア漂流 記 出演：中村真吉 他 スタッフ：菊地有子 他	目標値	650名
		札幌市教育文化会館 他		実績値	591名
6				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	9,250
				実績値	8,103

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な 出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東区市民劇団「オニオン座」育成事業	2018年7月21日・22日他	演目：夏の夜の夢であいましょう！ 出演：東区市民劇団オニオン座 他スタッフ：西脇秀之 他	目標値	入場者800名 参加者40名
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座 他		実績値	入場者758名 参加者72名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	入場者800名 参加者40名
				実績値	入場者758名 参加者72名

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な 出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	近隣小学校を対象としたアウトリーチ活動	2018年7月6日・19日他	内容：人形・衣装作り 他 指導：河合喜美子 他 スタッフ：大雪座 他	目標値	200名
		元町北小学校		実績値	527名
2	日本の伝統芸能・人形浄瑠璃体験ワークショップ	2018年7月5日他	内容：人形浄瑠璃体験 他 指導：さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 スタッフ：大雪座	目標値	100名
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座他		実績値	159名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	300名
				実績値	686名

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

専門のアーティストと協働し、新しい形態の舞台芸術作品づくりにチャレンジすることができ、札幌の芸術文化の振興にも大きく寄与するものとなった。また、北海道の歴史的な文化や伝統的な物語を伝えるための人形劇を制作することができ、地域の特色のある事業を発信することができた。そして、チェコやポーランド、韓国の専門人形劇団を招へいしやまびこ座で公演することで、やまびこ座の30周年を観客と一緒に盛大に祝うとともに海外の貴重な文化に触れる機会を提供することができた。観劇だけでなくワークショップを実施することで、日本のアマチュア人形劇団にとって良い刺激となり今後の文化活動の裾野拡大が期待できる。取り組みが新たな観客層の開拓、利用者の増に結び付く契機となった。

公演事業番号2の「プロデュース人形劇「北海道の創作人形劇」公演事業」において、長野県飯田市の共催としての公演が、日程や予算的なことが折り合わず、公演が中止となった。また、公演事業番号4「札幌市こどもの劇場やまびこ座30周年記念プレフェスティバル」においては、当初12月に実施を予定していた「冬休み特別招待公演」が出演劇団の都合がつかなくなったため、同年度内の春休み期間（3月）に変更した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

やまびこ座、こぐま座という全国でも類を見ない子ども文化（人形劇、児童劇、伝統文化等）の発信拠点として発展させていくために、助成事業を活用していきたい。新たな事業の模索、より広い範囲に渡っての関係機関や関係アーティストとの関係構築。全国、世界レベルでの関係を構築していくことで、現在の社会問題や公立劇場の役割、社会的ニーズ、未来を担う子どもたちに対して、文化活動を通してどのようなアプローチをしていくのか、それを継続していくためにも助成事業の重要性を認識している。

地域の文化施設が、経済的な利益としてすぐさま結果として表れることは少ない。まして子どもを対象とした文化活動は、対象が子どもということもあり、経済的な見返りを求めることはほぼ不可能と言えるであろう。それ以上に活動自体の意味や将来に渡っての期待度に対する投資等が重要であり、そのためにも、限られた予算をどのように有効、かつ効果的に事業展開を図っていくのが重要な鍵である。一方で、将来的に地域に根づく文化資源として観光分野や国際社会における地域の文化施設の取り組みが発信され、多くの観光客を呼び込むための一つのカテゴリーとしての機能も併せ持つことがこれからの在り方でもある。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

やまびこ座30周年記念事業が大きな契機となり、札幌はもとより全国各地、世界各国にやまびこ座、こぐま座の存在を大いにPRすることができた。その中でこれまで人材育成を柱に進めてきた事業成果が実を結び、アマチュア人形劇団や子どもたちの人形劇グループの活躍が目覚ましいものであった。

やまびこ座30周年記念事業の中で、子どもたちの劇団（小学生演劇グループ、小学生人形劇グループ（児童会館、砂川等）、中高生パペットユーススクール）が数多く参加し、全国の関係者からも驚きと称賛の声を頂いた。また、地域の方々が気軽に足を運べる施設としても、公演だけでなく、遊びに来るロビー利用者も上半期だけでも5,000人を超える来館者があった。劇場だからこそできる文化ボランティアの方々との交流も積極的に行なわれ、地域の中の劇場を強く感じた。

今回制作・上演を行った野外巨大人形劇「テンペスト」においては、さまざまな形状の人形や、役者、音楽、身体表現、そして観客参加型となるワークショップなども組み込んだ挑戦的な作品となった。当初の目的に掲げていたとおり、人形劇が小さい子どものためだけのものであるというイメージを払しょくし、驚きや刺激のある作品づくりを行うことができ、人形劇の可能性を大きく広げることにつながった。札幌国際人形劇フェスティバルにおいては、北海道内はもちろん国内の人形劇団がやまびこ座に集いあう交流の機会となっていた。これだけ多くの人形劇団の札幌への招へいや、運営費用に助成が無くては到底実施できなくその効果は大変大きいと改めて痛感した。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間・事業費ともに概ね計画通りに進行したが、公演事業番号2の「プロデュース人形劇「北海道の創作人形劇」公演事業」において、長野県飯田市の共催としての公演が、日程や予算的なことが折り合わず、公演が中止となった。また、公演事業番号4「札幌市こどもの劇場やまびこ座30周年記念プレフェスティバル」においては、当初12月に実施を予定していた「冬休み特別招待公演」が出演劇団の都合がつかなくなったため、同年度内の春休み期間（3月）に変更した。普及啓発事業においては、9月に発生した胆振東部地震の影響により、当初予定していたスケジュールや会場からは一部変更になったが、こちらも概ね予定どおり実施することができ、保護者や近隣住民に披露することができた。

公演事業2「プロデュース人形劇「北海道の創作人形劇」公演事業」

2. 「OKHOTSK -終わりの楽園-」

【日時】

8月10日（金）

【会場】

2. 「OKHOTSK -終わりの楽園-」

【日時】

公演中止

公演事業番号4「札幌市こどもの劇場やまびこ座30周年記念プレフェスティバル」

「冬休み特別招待公演」

とらまる人形劇団」（岡山県）

【日時】

12月22日（土）①11：00 ②14：00

「春休み特別招待公演」

とらまる人形劇団」（岡山県）

【日時】

3月26日（火）①11：00 ②14：00

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

子どもの文化に関する専門的知識を持つ施設として、市民に対しノウハウや技術を提供でき、また相談できる施設としての役割を担っている。また、アートマネジメント責任者、芸術的内容に関する責任者が同一であることで、地域ニーズや市民ニーズをいち早く捉え、どの関係機関とつながり、どのような目標、ねらいを持って事業に当たっていくのが容易となり、プロデューサーとプレーヤーを兼ねていることでの、より専門性や具体性をアーティストや参加する市民に対して伝えていくことも可能となっている。

専門的な職員を配置することで、いつでも、どんなときにも気軽に相談ができ、育成に携わることができた。基本的にはフランチャイズ団体という意味合いよりも育成団体という意味合いを持っており、助成を受けることで劇団の育成により力を注ぐことができ、公演事業や市民活動の活発化や、地域の活性化につなげることができた。公演事業においても、やまびこ座やこぐま座で人形劇や人形浄瑠璃の活動をする子どもたち、市内の児童会館の人形劇クラブの子どもたちなど、劇場が育成をしている小学生から大学生を出演者として起用することで、これまでの人材育成の成果を広く市民にPRすることができた。

建物設備としては、子どもたちが親しみやすい劇場デザインとなっている。また、舞台と客席の距離が近いことも親しみやすさや観やすさの重要なポイントとなっており、より身近に文化芸術に触れられる地域の拠点となっている。今後も作品創造はもちろんであるが、他事業や多ジャンルとの連携にも目を向けていき、将来的には同様の作品形態での制作を継続的に実施することで、地域活性化につなげ、札幌の新たな文化芸術活動として定着することで、人形劇の更なる裾野を広げていきたい。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域ニーズや劇場が求められているもの、期待されているものを取り入れ、専門アーティストと協働することで、より質の高い作品創造を目指し、札幌の文化として発信することができた。

やまびこ座、こぐま座どちらにおいても人材育成事業は根幹となっており、それぞれ年間各200ステージ以上の公演の8割を地元市民劇団が担っている。市民が主役となっている点や、市民による市民（子どもたち）のための劇場づくり、作品創り、専門アーティストなどの専門家と市民劇団や育成する子どもたちが繋がることで、札幌の子ども文化の底上げ、レベルアップ、拡大を狙い、必ず人材育成につなげていくことができた。これは10年、20年後を見据えた取り組みの一環であり、時間はかかるが、これらのグループ活動を重視した取り組みが、今後も継続した活動につながっていく。そして、子どもから大人までの世代別の講習会及びグループ活動を実施し、一連の流れを作り上げることで途切れの無い活動を支援することができた。

普及啓発事業においては、施設内だけではなく、近隣小学校などに出向きアウトリーチ活動を行うことで、たくさん子どもたちに体験の機会を与えることができ、実際に体験することでの楽しさや予想以上の感動を味わってもらうことができた。様々な文化体験を積んでいくことは、相手を受け入れる。相手を信じる。相手を認めてあげる。ということにもつながり、多文化共生の時代だからこそ、自国の文化の良さ、素晴らしさを知る機会を提供することができた。

入場者数の目標値に達することができなかった事業もあったため、広報面においてより広く効果的な方法を検討し、ホームページの改修等、改善できる点は随時着手している。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

やまびこ座とこぐま座では、『人が文化を育て、文化が人を育てる』というテーマをこれからも実践していくために、若い世代への時間や技術、想いの投資を引き続き行っていく。また、市民活動、市民劇団の拠点として機能する両施設は、開館当初から地元劇団（とりわけアマチュア劇団）との協働による事業展開が図られていた。単なるお芝居を上演するための施設という考えより、市民とともに作品や事業を創り上げるという創造的な空間を目指している。そのためには、人材養成事業をとおして、現在育てている子どもたちが将来の札幌の文化の担い手の中心として育っていくことを目標とし、様々な経験を踏んでいくことが重要である。人材養成を根幹に据えた運営は、これからも変わることがなく全ての目標として取り組んでいく。

助成を受けることで、専門のアーティストと協働することができることや、札幌市はもとより北海道内、全国各地の専門人形劇団や伝統人形芝居一座、世界各国（ポーランド、チェコ、韓国）から人形劇団を招へいすることができ、観劇だけでなくワークショップを実施することができた。それにより、アマチュアの人形劇団や、人材養成事業に関わる子どもたちにも非常に前向きな刺激とすることができた。言うに及ばず、これらの取り組みが各地の劇団や劇場とのネットワークづくりの一助となっている。

今後もやまびこ座・こぐま座を拠点とし、地域に根付いた文化の発展や文化の担い手のなる人づくりを積極的に進めていくとともに、地域の活性化に欠かすことのできない施設として、文化の発展に寄与していく。